

# 昭和大学病院麻酔科専門研修プログラム

## 1. 専門医制度の理念と専門医の使命

### ① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は、周術期の患者の生体管理を中心としながら、救急医療や集中治療における生体管理、種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において、患者の命を守り、安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで、国民の健康・福祉の増進に貢献する。

### ② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは、人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え、生体の侵襲行為である手術が可能のように管理する生体管理医学である。麻酔科専門医は、国民が安心して手術を受けられるように、手術中の麻酔管理のみならず、術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う、患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである。同時に、関連分野である集中治療や緩和医療、ペインクリニック、救急医療の分野でも、生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし、国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う。

## 2. 専門研修プログラムの概要と特徴

昭和大学は東京・横浜に4つの附属病院を持つ。本プログラムではこの4附属病院を中心の研修施設として、全国の専門性に秀でた優良な医療施設と連携しており、専攻医が多彩な症例を経験しながら麻酔科研修が行えるように構成されている。専攻医はプログラム内のどの施設からでも研修を始めることができる。

大学病院と専門医療施設が連携した本プログラムは、心臓外科麻酔（成人・小児）、胸部外科麻酔、小児麻酔、産科麻酔、神経ブロック症例、移植などの特殊麻酔症例が数多く経験できる。豊富な症例に加え、多様な専門性を持つ指導者が充実しており、専門医取得後もサブスペシャリティを確立する機会に多く恵まれていることが特徴である。また、女性医師が無理なく生活と両立してキャリアを構築できるような勤務体制の配慮もなされている。

本プログラムのキーワードは、上記の「多彩な臨床経験」に加え、「多様性」「海外経験」である。専攻医はペインクリニック、集中治療、緩和医療のローテーションを行い、手術室外での臨床経験も積むことができる。また、若いうちからの海外経験

を重視し、専攻医が希望すれば海外での学会発表、海外病院への視察ができるように指導を行う。さらに、救急や小児科、産科など他診療科での研修、海外への留学や、基礎系研究室での研究、大学院の学位取得ができるなど、自らのやりたいことをバックアップできる幅広い支援体制をとっている。

本研修プログラムでは、専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し、十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成する。

麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に記されている。

### 3. 専門研修プログラムの運営方針

周囲から信頼され、患者の「命を守る」麻酔科医を育成することがプログラムの運営方針である。

常に予期せぬことが起こりえる医療現場において患者の命を守るには、しっかりと事前準備に加えて多様性、柔軟性を備えた「不用意の用意」の心と、チーム医療においてリーダーシップを発揮できる高い倫理観や豊かな人間性が不可欠である。本プログラムではそれぞれの高度専門施設での臨床経験を通じて、上記の資質を段階的に養い、患者の命の最後の砦となれる麻酔科医を育成できる教育体制を提供する。

カリキュラムの前半は昭和大学病院、昭和大学横浜市北部病院などの大学附属病院を中心に一般的な知識・技術を習得し、後半に連携する専門医療施設にて多彩な経験を積むことを基本とする。手術麻酔だけでなく、ペインクリニック、集中治療、緩和医療の研修を一定期間行う。下記に示すローテーションはあくまでも典型的な例であり、実際のローテーションは各専攻医の希望に沿ったオーダーメイドのものとなる。

また、半年ごとに指導者とのフィードバック面談を行い、専攻医ひとりひとりの成長に合わせた教育体制をとる。

原則として、研修の前半2年間のうち少なくとも1年間、後半2年間のうち6ヶ月は、専門研修基幹施設で研修を行う。

#### 研修実施計画例

	A (標準)	B (小児)	C (心臓)	D (集中治療)
初年度 前期	昭和大学病院	昭和大学病院	昭和大学病院	昭和大学病院
初年度	昭和大学病院	昭和大学病院	昭和大学病院	昭和大学病院

後期				
2年度 前期	昭和大学病院 (ペイン)	昭和大学病院 (ペイン)	昭和大学病院 (ペイン)	昭和大学病院 (ペイン)
2年度 後期	昭和大学病院	昭和大学病院	昭和大学病院	昭和大学病院
3年度 前期	関連附属病院	関連小児医療機関	関連医療機関 (心臓)	昭和大学病院 (集中治療)
3年度 後期	関連附属病院 (緩和医療)	関連小児医療機関	関連医療機関 (心臓)	昭和大学病院 (集中治療)
4年度 前期	昭和大学病院 (集中治療)	昭和大学病院 (集中治療)	昭和大学病院 (集中治療)	関連附属病院 (緩和医療)
4年度 後期	昭和大学病院	関連附属病院 (緩和医療)	関連附属病院 (緩和医療)	昭和大学病院

#### 週間予定表

##### 昭和大学病院 麻酔ローテーションの例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術室	手術室	手術室	手術室	手術室	手術室	休み
午後	手術室	術前外来	手術室	休み	術前外来	休み	休み
当直			当直				

#### 4. 研修施設の指導体制と前年度麻酔科管理症例数

本研修プログラム全体における前年度合計麻酔科管理症例数：23,282症例

本研修プログラム全体における総指導医数：35人

	合計症例数
小児（6歳未満）の麻酔	1,436症例
帝王切開術の麻酔	1,032症例
心臓血管手術の麻酔 (胸部大動脈手術を含む)	707症例
胸部外科手術の麻酔	606症例
脳神経外科手術の麻酔	739症例

## ① 専門研修基幹施設

昭和大学病院

研修プログラム統括責任者：大嶽 浩司

専門研修指導医：大嶽 浩司

樋口 比登実

信太 賢治

岡安 理司

尾頭 希代子

稲村 ルキ

岡田 まゆみ

専門医：上嶋 浩順

小林 玲音

中川 元文

盛 直博

真一 弘士

田中 典子

認定病院番号：33

特徴：

- 1) ペイン，集中治療のローテーション可能
- 2) 外科の多くは内視鏡症例であり，特に食道がん手術症例数に恵まれている
- 3) 品川と羽田に近く、海外の高名な先生方が多く訪ねてきて、院内で講演を聞ける
- 4) ダヴィンチ，ハイブリッド手術室が揃っており，TAVIやRALPをはじめとした先端症例が体験できる
- 5) 神経ブロックの院内認定教育プログラムを持っている

麻酔科管理症例数 6057症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	425症例
帝王切開術の麻酔	268症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	102 症例
胸部外科手術の麻酔	136 症例
脳神経外科手術の麻酔	318症例

## ② 専門研修連携施設A

昭和大学医学部附属横浜市北部病院

研修実施責任者：大江 克憲

専門研修指導医：小坂 誠

大江 克憲

山田 新

専門医：志村 裕子

坂本 篤紀

吉田 愛

藤井 智子

岩本 泰斗

認定病院番号 928

特徴：

横浜の北部医療圏に立地した、外科系・内科系の壁を取り払ったセンター制をとっている地域中核病院において、各種の手術の麻酔および集中治療を経験できる。特に先天性心疾患には力を入れているので、小児心臓手術、心臓カテーテル麻酔の経験ができる。

麻酔科管理症例数 5142症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	432症例
帝王切開術の麻酔	361症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	93 症例
胸部外科手術の麻酔	221 症例
脳神経外科手術の麻酔	21症例

昭和大学江東豊洲病院

研修実施責任者：鈴木 尚志

専門研修指導医：鈴木 尚志

大塚 直樹

専門医：佐野仁美

認定病院番号：1182

特徴：

- 1) 東京オリンピックに向け発展途上の豊洲ベイエリアに2014年竣工した最新の設備で臨床ができる
- 2) 僧帽弁に対するMICSやアカラシアに対するPOEMなどで、世界的な術者と仕事ができる

3) 東京湾が見渡せる大きなICUフロアで集中治療に携わることができる

麻酔科管理症例数 2728症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	89症例
帝王切開術の麻酔	88症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	54 症例
胸部外科手術の麻酔	10 症例
脳神経外科手術の麻酔	34症例

国立成育医療研究センター

研修実施責任者：鈴木 康之

専門研修指導医：鈴木 康之

田村 高子

糟谷 周吾

近藤 陽一

遠山 悟史

専門医：佐藤 正規

小暮 泰大

認定病院番号：87

麻酔科管理症例数 4432 症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	150症例
帝王切開術の麻酔	20症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	20 症例
胸部外科手術の麻酔	5 症例
脳神経外科手術の麻酔	10症例

静岡済生会総合病院

研修実施責任者：山本 典正

専門研修指導医：山本 典正

遠井 健司

認定病院番号：293

麻酔科管理症例数 1097症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	14症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	13 症例
胸部外科手術の麻酔	4 症例
脳神経外科手術の麻酔	2症例

埼玉県立小児医療センター

研修実施責任者：蔵谷 紀文

専門研修指導医：蔵谷 紀文

濱屋 和泉

専門医：佐々木 麻美子

認定病院番号：399

麻酔科管理症例数 2292症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	100症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	5 症例
胸部外科手術の麻酔	1 症例
脳神経外科手術の麻酔	1症例

恩賜財団母子愛育会 愛育病院

研修実施責任者：林 雅子

専門研修指導医：林 雅子

新原 朗子

認定病院番号：1685

麻酔科管理症例数 991症例

	本プログラム分
--	---------

小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	50症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

東京労災病院

研修実施責任者：本多 信雅

専門研修指導医：本多 信雅

専門医：伊達 久子

認定病院番号：2 6 2

麻酔科管理症例数 1707症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	38症例
帝王切開術の麻酔	48症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	46 症例
脳神経外科手術の麻酔	136症例

菊名記念病院

研修実施責任者：加藤 類

専門研修指導医：加藤 類

専門医：岩切 聡子

認定病院番号：1 7 8 0

麻酔科管理症例数 1572症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	85 症例
胸部外科手術の麻酔	6 症例



脳神経外科手術の麻酔	57症例
------------	------

### ③ 専門研修連携施設B

昭和大学医学部附属藤が丘病院

研修実施責任者：桑迫 勇登

専門研修指導医：桑迫 勇登

専門医：奥 和典

篠田 威人

村上 和歌子

認定病院番号： 1 6 5

特徴：

横浜の北部医療圏に立地した大学の附属病院で、心臓外科や脳外科をはじめとした多くの診療科が揃っている。救命救急センターを併設しているため、外傷や緊急症例などの経験ができる。

麻酔科管理症例数 4957症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	73症例
帝王切開術の麻酔	182症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	146 症例
胸部外科手術の麻酔	22 症例
脳神経外科手術の麻酔	110症例

湘南鎌倉総合病院

研修実施責任者：小出 康弘

専門研修指導医：小出 康弘

野見山 延

豊田 造作

加古 英介

渡辺 桂

専門医：迫田 厚志

石川 亜希子

福井 公哉

認定病院番号： 1 4 3 6

特徴：

救急外来が活発な急性期病院，先進的な循環器カテーテル治療に力を注いでいる

麻酔科管理症例数 4956症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	25症例
帝王切開術の麻酔	0 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	25 症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

公益財団法人 がん研究会 がん研有明病院

研修実施責任者：横田 美幸

専門研修指導医：横田 美幸

田中 清高

長田 理

関 誠

佐野 博美

平島 潤子

七松 恭子

森野 良蔵

玄 運官

山本 理恵

蛭名 稔明

三木 美津子

大里 彰二郎

山内 章裕

認定病院番号：779

特徴：

がん診療に特化．希望者は緩和ケアチームへの参加可能．

麻酔科管理症例数 7404症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例

帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 (胸部大動脈手術を含む)	0症例
胸部外科手術の麻酔	150症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

自治医科大学附属さいたま医療センター病院

研修実施責任者：石黒 芳紀

専門研修指導医：石黒 芳紀

讃井 将満

大塚 祐史

後藤 卓子

専門医：佐島 威行

梶浦 明

飯塚 悠祐

深津 健

毛利 英之

認定病院番号：9 6 1

麻酔科管理症例数 4528症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 (胸部大動脈手術を含む)	25症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	25症例

東京ベイ浦安・市川医療センター

研修実施責任者：小野寺英貴

専門研修指導医：小野寺英貴

中里 桂子

認定病院番号：1 6 1 2

麻酔科管理症例数 2330症例

	本プログラム分
--	---------

小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	44 症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

公益財団法人東京都保健医療公社 荏原病院

研修実施責任者：米良 仁志

専門研修指導医：米良 仁志

橋本 誠

加藤 隆文

生方 祐介

小寺 志保

専門医：中村 繭子

中島 愛

認定病院番号：792

特徴：

当院には総合脳卒中センターがあり地域の急性期の脳血管疾患医療の中核となっている。脳神経外科の他、ほぼ全ての診療科に対応しており、偏りのない麻酔管理が経験できる。緊急手術も多く、救急診療における麻酔管理を学べる。

当院に診療科のない心臓外科、小児外科などの麻酔管理は専門研修連携施設で研修を行いより専門的な知識と経験を得られるようにしている。ペインクリニックは毎日行っており充実した研修ができる。緩和ケアチームの研修も行える。

麻酔科管理症例数 1946症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

日本赤十字社医療センター

研修実施責任者：加藤 啓一

専門研修指導医：加藤 啓一（麻醉，集中治療）  
                   渡辺 えり（麻醉，ペインクリニック）  
                   種田 益造（麻醉）  
                   柄澤 俊二（麻醉）  
                   齋藤 豊（集中治療，麻醉）  
                   小澤 和紀（麻醉）  
                   諏訪 潤子（麻醉）  
                   浅野 哲（麻醉）  
 専門医：枝窪 俊輔（麻醉）  
           林 南穂子（麻醉）  
           細川 麻衣子（麻醉）

認定病院番号：76

特徴：

がん診療，小児・周産期医療，救命救急及び災害救護を担う，地域の中核施設

麻醉科管理症例数 4482症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻醉	30症例
帝王切開術の麻醉	15症例
心臓血管手術の麻醉 （胸部大動脈手術を含む）	0症例
胸部外科手術の麻醉	0症例
脳神経外科手術の麻醉	0症例

聖路加国際病院

研修実施責任者：岡田 修  
 専門研修指導医：岡田 修  
                   橋本 学  
                   青木 和裕  
                   清水 美保  
                   片山 正夫  
 専門医：藤田 信子

認定病院番号：249

麻醉科管理症例数 6048症例

	本プログラム分

小児（6歳未満）の麻酔	10症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	20症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

#### 小倉記念病院

研修実施責任者：瀬尾 勝弘

専門研修指導医：瀬尾 勝弘

中島 研

宮脇 宏

角本 眞一

近藤 香

栗林 淳也

隈元 泰輔

専門医：鴛淵 るみ

認定病院番号：5 2

#### 特徴：

小倉記念病院は、成人患者のみに対応していますが、心臓手術症例、脳神経外科手術症例に特徴があります。循環器合併非心臓手術の麻酔症例も多く経験できます。集中治療にも力を入れています。

#### 麻酔科管理症例数 2952症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	25症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

#### 千葉メディカルセンター

研修実施責任者：伊藤 博隆

専門研修指導医：伊藤 博隆

三枝 宏彰

藤谷 仁  
平井 えい子

認定病院番号：14295

麻酔科管理症例数 1833症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	50症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0症例
胸部外科手術の麻酔	5 症例
脳神経外科手術の麻酔	25症例

岡山大学病院

研修実施責任者：森松 博史

専門研修指導医：森松 博史

岩崎 達雄

武田 吉正

佐藤 健治

小林 求

賀来 隆治

谷西 秀紀

清水 一好

松岡 義和

佐々木 俊弘

松崎 孝

未盛 智彦

林 真雄

杉本 健太郎

鈴木 聡

西谷 恭子

野々村 智子

専門医：谷口 新

金澤 伴幸

吉鷹 志保

廣井 一正

岡原 修司  
川上 直哉  
日笠 友起子  
塩路 直弘

認定病院番号：23

特徴：

小児心臓手術や臓器移植手術（心，肺，肝，腎）などの高度先進医療に加えて，小児麻酔，食道手術や呼吸器外科手術における分離肺換気など特殊麻酔症例も数多く経験できる．また麻酔のみならず，小児を含む集中治療（30床），ペインクリニックの研修も可能である．また周術期管理センターが確立しており，多職種による周術期チーム医療システムを学ぶこともできる．

麻酔科管理症例数 6220症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

広島市民病院

研修実施責任者：鷹取誠

専門研修指導医：鷹取誠（麻酔，集中治療，心血管麻酔）

武藤純（麻酔，緩和）

藤中和三（麻酔，集中治療）

上原健司（麻酔，集中治療）

専門医：後藤隆司（麻酔，心血管麻酔）

寺田統子（麻酔，心血管麻酔）

亀山美希（麻酔）

武藤渚（麻酔）

田窪一誠（麻酔）

松本森作（麻酔）

認定病院番号170

特徴：



麻酔，周術期，集中治療を一連の重症患者における生体管理学として一括した一元管理体制をとっており，これらの領域を同時に平行して研修する．中四国地方でも有数の手術件数があり，小児心臓手術を含め多岐にわたる領域の麻酔経験が可能．

麻酔科管理症例数 6707症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

公立大学法人横浜市立大学附属病院市民総合医療センター

研修実施責任者：倉橋 清泰

専門研修指導医：倉橋 清泰

藤本 啓子

馬場 靖子

川上 裕理

田澤 利治

認定病院番号：593

特徴：

3次救命救急センターと神奈川県総合周産期センターの指定を受ける，横浜市中心部の大学附属病院で，救急，周産期，循環器の症例が多い．ハイブリッド手術室を持ち，TAVIも行っている．ここの集中治療部も麻酔科医の専属チームが常駐．2017年度からは集学的慢性痛センターもできる予定．

麻酔科管理症例数 5946症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	50症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

公立大学法人 横浜市立大学附属病院

研修実施責任者：後藤 隆久

専門研修指導医：後藤 隆久

三浦 倫一

佐藤 仁

専門医：水野 祐介

西村 祥一

認定病院番号：72

特徴：

大学病院本院にふさわしい大手術や、状態の悪い患者が多く、麻酔科医としてチャレンジングな症例を多く経験できる。神経ブロックも積極的に行っている。集中治療部は麻酔科の専属チームが常駐。臨床研究にも力を入れ、ヨーロッパ麻酔学会に毎年複数の演題を出している。手術室から東京湾が見え、近隣には八景島があるなど、最高の環境である。

麻酔科管理症例数 4551症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

## 5. 募集定員

8名

## 6. 専攻医の採用と問い合わせ先

### ① 採用方法

専攻医に応募する者は、日本専門医機構に定められた方法により、期限までに（2016年9月ごろを予定）志望の研修プログラムに応募する。

### ② 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは、昭和大学病院麻酔科専門研修プログラム website、電話、e-mail、郵送のいずれの方法でも可能である。

昭和大学病院 麻酔科専門医研修プログラム

〒142-8666 東京都品川区旗の台1-5-8

TEL 03-3784-8575, FAX 03-3784-8357 E-mail: masuika@med.showa-u.ac.jp

Website: <http://showa-masui.jp/>

## 7. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

### ① 専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は、4年間の専門研修を修了することで、安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し、国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる。具体的には、専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる。

- 1) 十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技能
- 2) 刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力、問題解決能力
- 3) 医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度、習慣
- 4) 常に進歩する医療・医学に則して、生涯を通じて研鑽を継続する向上心

麻酔科専門研修後には、大学院への進学やサブスペシャリティ領域の専門研修を開始する準備も整っており、専門医取得後もシームレスに次の段階に進み、個々のスキルアップを図ることが出来る。

### ② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために、研修期間中に別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた専門知識、専門技能、学問的姿勢、医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する。

### ③ 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識、技能、態度を備えるために、別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた経験すべき疾患・病態、経験すべき診療・検査、経験すべき麻酔症例、学術活動の経験目標を達成する。

このうちの経験症例に関して、原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが、地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り、研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち、専門研修指導医が指導した症例に限っては、専門研修の経験症例数として数えることができる。

## 8. 専門研修方法

別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた1) 臨床現場での学習, 2) 臨床現場を離れた学習, 3) 自己学習により, 専門医としてふさわしい水準の知識, 技能, 態度を修得する.

## 9. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って, 下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する.

### 専門研修1年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し, ASA 1～2度の患者の通常の定時手術に対して, 指導医の指導のもと, 安全に周術期管理を行うことができる.

### 専門研修2年目

1年目で修得した技能, 知識をさらに発展させ, 全身状態の悪いASA 3度の患者の周術期管理やASA 1～2度の緊急手術の周術期管理を, 指導医の指導のもと, 安全に行うことができる.

### 専門研修3年目

心臓外科手術, 胸部外科手術, 脳神経外科手術, 帝王切開手術, 小児手術などを経験し, さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと, 安全に行うことができる. また, ペインクリニック, 集中治療, 救急医療など関連領域の臨床に携わり, 知識・技能を修得する.

### 専門研修4年目

3年目の経験をさらに発展させ, さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる. 基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが, 難易度の高い症例, 緊急時などは適切に上級医をコールして, 患者の安全を守ることができる.

## 10. 専門研修の評価 (自己評価と他者評価)

### ① 形成的評価

- 研修実績記録: 専攻医は毎研修年次末に, **専攻医研修実績記録フォーマット**を用いて自らの研修実績を記録する. 研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される.
- 専門研修指導医による評価とフィードバック: 研修実績記録に基づき, 専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し, **研修実績および到達度評価表, 指導記録フォーマット**によるフィードバック

を行う。研修プログラム管理委員会は、各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し、専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる。

## ② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において、専門研修4年次の最終月に、**専攻医研修実績フォーマット**、**研修実績および到達度評価表**、**指導記録フォーマット**をもとに、研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて、各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識、②専門技能、③医師として備えるべき学問的姿勢、倫理性、社会性、適性等を修得したかを総合的に評価し、専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する。

## 11. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標、経験すべき症例数を達成し、知識、技能、態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうか修了要件である。各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において、研修期間中に行われた形成的評価、総括的評価を元に修了判定が行われる。

## 12. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は、毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い、研修プログラム管理委員会に提出する。評価を行ったことで、専攻医が不利益を被らないように、研修プログラム統括責任者は、専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある。

研修プログラム統括管理者は、この評価に基づいて、すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために、自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する。

## 13. 専門研修の休止・中断、研修プログラムの移動

### ① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき、研修プログラム管理委員会が判断を行う。
- 出産あるいは疾病などに伴う6ヶ月以内の休止は1回までは研修期間に含まれる。
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は、連続して2年迄休止を認めることとする。休止期間は研修期間に含まれない。研修プログラムの休止回数に制限はなく、休止期間が連続して2年を越えていなければ、それまでの研修期間はすべて認められ、通算して4年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす。
- 2年を越えて研修プログラムを休止した場合は、それまでの研修期間は認められない。ただし、地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については、卒後に課せ

られた義務を果たすために特例扱いとし2年以上の休止を認める。

## ② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は、研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする。
- 専門研修の中断については、専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合、研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる。

## ③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は、やむを得ない場合、研修期間中に研修プログラムを移動することができる。その際は移動元、移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて、日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある。麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める。

## 14. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には、地域医療の中核病院としての静岡済生会総合病院、東京労災病院、菊名記念病院、荏原病院、小倉記念病院、湘南鎌倉総合病院、東京ベイ浦安・市川医療センター、千葉メディカルセンター、広島市民病院など幅広い連携施設が入っている。医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し、適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため、専攻医は、大学の附属病院だけでなく、関連する地域の研修連携施設においても一定期間の研修を行い、実務を通じて当該地域における麻酔診療のニーズを理解する。